

金融広報中央委員会の活動

(2012 年度<平成 24 年度>)

しるぽると
www.shiruporuto.jp
金融広報中央委員会
(事務局 日本銀行情報サービス局内)

金融広報活動

1. 講演会・セミナー・イベント活動	
(1)「親子のためのお金学習フェスタ」の開催	2
(2)「金融教育公開授業」の開催	6
(3)「教員のための金融教育セミナー」の開催	10
(4)「消費者教育フェスタ」への参加	12
(5)教職課程を有する大学等における講義	12
2. 啓発資料・教材、情報発信	
(1)「くらし塾 きんゆう塾」の季刊発行	13
(2)「金融商品なんでも百科」の見直し	14
(3)「暮らしと金融なんでもデータ」の見直し	15
(4)「金融学習ナビゲーター」の見直し	15
(5)「金融教育の手引き」の発刊	15
(6)ホームページを通じた情報発信	16
(7)ビデオ・DVDの貸出	18
3. コンクール	
(1)金融教育に関する小論文・実践報告コンクール	19
(2)「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール	21
(3)「お金の作文」コンクール	23

調査研究活動

1. 金融力調査	25
2. 家計の金融行動に関する世論調査	25
3. 海外の金融教育の実情調査、国際機関等との情報交換	27

都道府県金融広報委員会を通じた活動

1. 概要	28
2. 金融広報アドバイザー制度	29
3. 金融学習グループ制度	29
4. 金融・金銭教育研究校制度	29
5. 金融教育研究グループ制度	30
6. 金融学習特別推進地区制度	30

その他の活動

1. 各地教育委員会等への訪問	31
2. 金融経済教育研究会への参画	31
3. 消費者教育推進会議への参画	31

(資料1)金融広報中央委員会活動の相互連携図

(資料2)主な金融経済等講演会の開催状況

活動概況

2012年度は、「必要とされる情報を、効果的に伝えよう」をテーマに掲げ、積極的に活動を展開しました。この活動テーマは、「金融知識の普及や金融教育の支援において、その対象が必要とする情報の内容や利用する情報媒体は、年齢層等によって異なるため、相手方のニーズに応じた情報を効果的な方法で伝えていこう」という考え方に基づくものでした。

こうした活動テーマの下で、とくに「学校における金融教育の支援」を重点課題と位置付け、様々な取組みを行いました。また、各種の活動を進めるに際しては、各地金融広報委員会、金融広報アドバイザー、関係行政機関・関係諸団体等との情報交換の成果を活用しつつ人々の情報ニーズの把握に努めたほか、関係行政機関・関係諸団体との調整・連携について、各関係先の活動の重点や得意分野を踏まえながら、より効果的な対応を図りました。

以下の各章では、各活動の内容を具体的にみていきます。

金融広報活動

1. 講演会・セミナー・イベント活動

(1)「親子のためのお金学習フェスタ」の開催

【目的】

児童・生徒とその保護者を中心に、金融や経済の仕組み、あるいは、暮らしに身近なお金の知識について、楽しながら学んでいただくことを通じて、金融教育の必要性についてご理解をいただくとともに、子どもたちが社会の中で生きる力を育てていただくことを目的としています。

【内容】

2005年度から2011年度にかけて全国各地で開催した「金融教育フェスティバル」を見直し、子どもたちとその保護者に対象を絞った体験型イベントとして、以下の全国5都市で開催しました。子どもたちには、お金の仕組みや役割、働くことの大切さ等について楽しながら学べるよう、中央銀行の仕事体験、カレー作りゲーム、キャラクター・ショーなど体験・参加型のプログラムを用意したほか、親子で一緒に考えながら参加できるお金クイズや貯金箱を作るコーナーなどを設けました。また、委員団体や官庁などが作成した金融教育に関連する資料を提供するコーナーも設けました。各開催地とも盛況で、全開催地合計で約3,000名の方々にご来場いただきました。

(敬称略)

行事名	「親子のためのお金学習フェスタ 2012」		
日 時 ・ 開催地	2012年8月25日(土)	10:00~17:00	兵庫県神戸市
	2012年10月21日(日)	10:00~17:00	静岡県静岡市
	2012年11月23日(金・祝)	10:00~16:30	東京都渋谷区
	2012年12月15日(土)	10:00~16:00	福島県福島市
	2013年1月19日(土)	10:00~17:00	愛媛県松山市
主催等	主催：全開催地 金融広報中央委員会 兵庫　兵庫県金融広報委員会、兵庫県、神戸市 静岡　静岡県金融広報委員会、静岡県、静岡市 東京　東京都金融広報委員会 福島　福島県金融広報委員会、福島県、福島市 愛媛　愛媛県金融広報委員会、愛媛県、松山市 後援：文部科学省、消費者庁、金融庁、日本銀行、日本PTA全国協議会、開催地の都県教育委員会および開催地の市教育委員会		
内 容	1. お金の体験学習プログラム <対象>原則として小学校低・中学年		

	<p><定員> 1回 42名（兵庫・静岡・愛媛は4回、東京は3回、福島は2回開催）</p> <p><内容> 中央銀行の仕事やおかねの上手な使い方等について、体験を通して楽しく学びました。</p> <p>(1) 仕事体験</p> <p>参加した子どもたちは、中央銀行の見習い職員として、グループごとに貨幣マスを使ったコインの選別と、模擬銀行券を使ったお札の数え方を体験し、働いた報酬としてお給料（模擬貨幣）を受け取りました。</p> <p>(2) カレー作りゲーム</p> <p>仕事体験で得たお給料で、家族のためにカレーの材料を買うというゲームに取組みました。食材の値段を考えながらリストを作成して買い物に挑戦し、限られた予算の中でのおかねの「使い方」を学習しました。最後に、子どもたちに「おかねの体験学習プログラム認定証」を贈呈しました。</p> <p>*「カレー作りゲーム」監修 あんびる えつこ</p> <p>2. ガチャピン・ムックのスペシャルショー</p> <p><対象> 原則として小学校全学年</p> <p><定員> 1回 100~200名（福島は2回、その他の会場は3回開催）</p> <p><内容> ガチャピン・ムックと一緒に、「お姉さん」と「錢形先生」からおかねのことを学ぶキャラクター・ショーが行われました。子どもたちは、おかねの歴史や紙幣、貨幣の様々な話題に興味深く聞き入ったり、おかねに関するクイズに答えたりして楽しくおかねのことを学ぶことができました。また、ガチャピン・ムックとの楽しい握手会も行いました。</p> <p>3. おかねの体験広場</p> <p>(1) 貯金箱作り</p> <p><内容> 知るばるとのキャラクターが描かれた「車」型、「新幹線」型、「はしご車」型の特製貯金箱に、好きな色を塗って組み立てました。</p> <p>(2) おかねクイズ</p> <p><内容> 会場内のヒントパネルを手がかりに、おかねに関する質問に答えるクイズ。10問中8問以上正解した方に「おかね博士認定証」を贈呈しました。</p> <p>(3) お札の秘密体験</p> <p><内容>マイクロスコープやブラックライトで見ることで、お札に用いられている特殊印刷などの最新技術を知っていただきました。</p> <p>(4) おかねについて学ぶコーナー</p> <p><内容> 小判五十両包み、フェイ（石貨）など珍しい貨幣や金塊のレプリカを展示。千両箱の思いもよらぬ重さに驚くなど、体験を通じて、おかねのことを学びました。</p>
--	--

	<p>(5) ビデオ上映 <内容> ものの価値や健全な生活習慣の重要性などを伝える子ども向けビデオ「ボクの犬小屋日記」、「ホシガリ姫の冒険」、「100万円あったら、どうする?」、「お金は回る くらしと金融」を上映しました。</p> <p>(6) 模擬一億円パック重さ体験コーナー <内容> 100万円の束 100個に相当する大きな「かたまり」に、力自慢をかねて、家族でその重さと大きさを体験していただきました。</p> <p>(7) 写真撮影コーナー <内容> 一万円札の顔出しパネルと、知るぽるとキャラクターの「矢口フアミリー」が勢ぞろいした立体パネルの2点を用意し、それぞれのポーズで記念撮影をお楽しみいただきました。</p> <p>4. 子どものためのおかねの講演会（福島会場） <対象> 原則として小学校全学年および保護者 <定員> 200名 <内容> 大人になって買い物や契約をするときに大事なことを、分かりやすく語っていただきました。 「くらしの中の身近なルール『けいやく』ってなに？」 講師 渡辺健寿（弁護士）</p> <p>5. 金融教育資料提供コーナー <対象> 全ての来場者 <内容> 主催者ならびに協力団体の金融知識や金融教育に関する刊行物を提供しました。</p>
--	---

（「親子のためのおかね学習フェスタ 2012」参照先）

<http://www.shiruporuto.jp/event/2012/12fest/index.html>

<p style="text-align: center;">おかねの体験学習プログラム</p> <p style="text-align: center;">「仕事体験」</p>	
	
<p style="text-align: center;">「ガチャピン・ムックのスペシャルショー」</p>	
	
<p style="text-align: center;">おかねの体験広場</p>	
<p style="text-align: center;">「貯金箱作り」</p> 	<p style="text-align: center;">「お札の秘密体験」</p> 
<p style="text-align: center;">子どものためのおかねの講演会（福島会場）</p> <p style="text-align: center;">くらしの中の身近なルール「けいやく」ってなに？</p>	
	

(2)「金融教育公開授業」の開催

【目的】

学校で実施される金融教育関連の実際の授業を、教育関係者、保護者、地域住民等多くの方々にご覧いただくことで、金融教育の重要性を広く理解していただくことを目的としています。

【内容】

金融・金銭教育研究校を中心に、実際の授業を参観していただくとともに、金融教育の専門家による講演等を併せて行う催しです。本事業は2005年度に開始して以来8年目を迎え、全国17か所の小学校、中学校、高等学校において開催しました(2005~2012年度累計で213か所において開催)。

(敬称略)

開催日	開催校名	公開授業講師	公開授業内容
		講演講師	講演テーマ・内容
2012年 9月25日(火)	愛媛県 新居浜市立 大生院 中学校	同中学校教員	「わたしたちと消費生活」(2年生対象)
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プランナー、生活経済ジャーナリスト)	「知らないと損するお金のこわい話」
10月25日(木)	岡山県立 笠岡商業 高等学校	同高等学校教員	「簿記」、「ビジネス基礎」(1年生対象) 「家庭総合」(2年生対象) 「課題研究(FP講座)」(3年生対象)
		あんびるえつこ (生活経済ジャーナリスト、「子供のお金教育を考える会」代表)	「生きていくためのお金の話」
10月29日(月)	山形県 山形市立 商業高等学校	同高等学校教員	「消費者と法～かしこい消費者するために～」(3年生対象、経済活動と法)
		ダニエル・カール (翻訳家・タレント、山形弁研究家)	「金融教育を考える～日米の生活体験を通して～」
10月31日(水)	千葉県立 君津商業 高等学校	同高等学校教員	「知っておきたいこれだけは～オトナ社会へのパスポート～」(全学年対象)
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プランナー、生活経済ジャーナリスト)	「学校では教えてくれないお金の話」

開催日	開催校名	公開授業講師	公開授業内容
		講演講師	講演テーマ・内容
11月9日(金)	埼玉県 越谷市立 荻島小学校	同小学校教員	「ようこそ！あそびランドへ」(2年生対象) 「わたしたちのくらしと商店」(3年生対象) 「くふうしよう 楽しい食事」(6年生対象)
		同小学校教員、児童、 保護者発表	研究発表「確かな力を持ち、豊かな心で学び、 思いや願いを実現する子の育成 金融教育 (小学生の経済学)を通して」
		あんびるえつこ (生活経済ジャーナリスト、「子供のお金教育 を考える会」代表)	「子どもたちの生きる力と金融教育」
11月14日(水)	山梨県 甲州市立 塩山北 小学校	同小学校教員	「おとしものがへんしん！」(1年生対象) 「ふしぎたんけん ふれあいたんけん～ザル ツタウン わくわくおしごとたんけんた い～」、「ものを大切につかおう」(2年生対 象) 「見直そう 私たちの買い物」(3年生対象) 「計算の約束を調べよう (計算のきまり)」 (4年生対象) 「開発しよう！ ヒット商品」(5年生対象) 「くふうしよう 楽しい食事」(6年生対象) 「電車やバスに乗ってでかけよう 2012！」 (特別支援学級対象)
		同小学校教員	研究協議
		同小学校教員発表	研究発表「生き生きと学びあい、心豊かに生 きる子どもの育成～自分の役割をプロデ ュースする活動を通して～」
11月21日(水)	群馬県 高崎市立 南小学校	同小学校教員	「じょうずに使おう 物とお金」(5年生対象)
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プ ランナー、生活経済 ジャーナリスト)	「かしこい お金のつかい方」
11月21日(水)	岡山県立 林野 高等学校	同高等学校教員	「商品について企業と消費者の立場から考え よう」(1年生対象、現代社会・家庭基礎連携 事業)
		住田裕子(弁護士)	「金融トラブルから身を守ろう」
11月22日(木)	京都府 舞鶴市立 青葉中学校	同中学校教員	「消費生活と経済のしくみ」(3年生対象)
		加賀屋克美 (有)加賀屋感動スト アーマネージメント代 表取締役)	「日米のディズニーで教わった販売と感動の サービス」

開催日	開催校名	公開授業講師	公開授業内容
		講演講師	講演テーマ・内容
11月22日(木)	兵庫県 神戸市立 六甲アイラ ンド小学校	同小学校教員	「やさいパーティをしよう」(2年生対象) 「安全で安心なくらし～安心してくらせる 町～」(4年生対象) 「買い物の鉄人～究極の一品を作ろう～」(5 年生対象)
		同小学校教員発表	研究発表「2年間の金銭教育活動への取り組 みについて」
		あんびるえつこ (生活経済ジャーナリ スト、「子供のお金教育 を考える会」代表)	「子どもたちの生きる力と金銭教育」
11月22日(木)	福岡県 福岡市立 鶴田小学校	同小学校教員	「もったいないって どんなこと」(1年生対 象) 「ぐんぐんそだて、みんなのやさい」(2年生 対象) 「見直そう！わたしたちのくらし」(3年生対 象) 「おこづかいを上手に使おう」(4年生対象) 「上手に使おう 物やお金」(5年生対象) 「将来の自分をみつめよう」(6年生対象) 「買い物をしましょう」(特別支援学級対象)
		同小学校教員	基調提案「ものやお金を大切にし、進んで働く 子どもの育成～学習意欲を引き出す教材の 工夫を通して～」
		徳永玲子 (キャスター)	「夢をあきらめないで～ものを大切にする 心～」
12月4日(火)	岐阜県立 岐阜各務野 高等学校	同高等学校教員	「社債の記帳方法」(1年生対象、簿記) 「代金の決済方法」(1年生対象、ビジネス基 礎) 「信用販売」(2年生対象、マーケティング) 「財務諸表の見方」(2年生対象、会計) 「株主総会を開こう」(3年生対象、総合実践) 「株式学習ゲームのまとめ」(3年生対象、課 題研究)
		洞口勝人 (ファイナンシャル・ プランナー)	「金融と経済に関する知識を深め、人生設計 を立てる」
12月7日(金)	長崎県 長崎市立 小江原 中学校	同中学校教員	「貨幣と金融」(3年生対象、社会科)
		あんびるえつこ (生活経済ジャーナリ スト、「子供のお金教育 を考える会」代表)	「生きていくためのお金の話」

開催日	開催校名	公開授業講師	公開授業内容
		講演講師	講演テーマ・内容
12月11日(火)	北海道 学校法人 札幌光星 学園 札幌光星 高等学校	同高等学校教員	「金融・経済を考える」(2年生対象)
		加賀屋克美 ((有)加賀屋感動スト アーマネージメント代 表取締役)	「日米のディズニーで学んだ感動のサービス」
2013年 1月17日(木)	富崎県 高千穂町立 田原小学校	同小学校教員	「お金ってなあに?」(1・2年生対象) 「物の大切さを知ろう」(3・4年生対象) 「自分の生活を見つめ直そう」(5・6年生対象)
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プ ランナー、生活経済 ジャーナリスト)	「しごとってナニ?おかねってナニ?」
		同中学校教員	「マネー討論会」、「発明への道(真理愛・理 想の実現)」、「蒲生生のお年玉はいくら?」、「 お店をつくってお金のやりとりをしよう」 (1年生対象) 「公共物を大切に」、「地券を読んでみよう」、「 Let's go shopping.」(2年生対象) 「投資家になって考えよう」、「賢い消費者に なろう」(3年生対象)
1月25日(金)	静岡県 静岡市立 蒲原中学校	同中学校教員発表	研究発表「宿場まつりで起業家体験」
		阿部信太郎 (城西国際大学 准教授)	「学校における金融教育の進め方 消費者・ 経済教育の視点から」
		同高等学校教員	「社会を知る 学年発表」(1年生対象、総合 的な学習の時間) 「借金と自己責任」(2年生対象、現代社会) 「消費社会を生きる」(2年生対象、家庭総合) 「金融と私たちの暮らし」(3年生対象、総合 的な学習の時間) 「金利について」(3年生対象、商業技術)
2月13日(木)	山梨県立 塩山 高等学校	同高等学校教員	実践報告・研究協議
		加賀屋克美 ((有)加賀屋感動スト アーマネージメント代 表取締役)	「日米のディズニーで学んだ感動のサービス」

(「金融教育公開授業」参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/event/2012/12jugyo/index.html>

(3) 「教員のための金融教育セミナー」の開催

【目的】

児童生徒や大学生におかねとの正しい関係を伝え、現実社会を生きる力を育むために、小学校・中学校・高等学校・大学等の教員、および教職を目指す大学生・大学院生を対象として、金融教育の実践に向けた手がかりをご紹介することを目的としています。

【内容】

本年度は、午前に、文部科学省初等中等教育局教育課程課長による来賓講話のほか、金融教育等に造詣の深い専門家によるパネル・ディスカッションを行い、午後は小学校・中学校・高等学校・大学の4分科会を設けて、金融教育に取り組まれている先生方による実践発表およびワークショップを実施しました。

(敬称略)

行事名	「2012年度 教員のための金融教育セミナー」
日時・場所	2012年7月31日(火) 9:30~16:30 日本教育会館(東京都千代田区)
主催・後援	主催: 金融広報中央委員会 後援: 文部科学省、金融庁、消費者庁、東京都教育委員会、全国公民科・社会科教育研究会、全国家庭科教育協会、日本消費者教育学会、経済教育ネットワーク、日本銀行
募集対象・参加者数	対象: 全国の小学校・中学校・高等学校・高等専門学校・高等専修学校・特別支援学校(学級)・大学の教員、および教職を目指す大学生・大学院生 参加者: 約150名
内容	1. 来賓講話 <テーマ>「新学習指導要領における金融教育～実施上の留意点～」 <講師>文部科学省初等中等教育局 塩見みづ枝 教育課程課長 <概要>新学習指導要領における金融に関する記述の充実例や、学校における消費者教育の推進等についてお話をいただきました。 2. パネル・ディスカッション <テーマ>「学校における金融教育の充実に向けて～新学習指導要領および消費者教育の指針を踏まえて～」 <パネリスト>国立教育政策研究所 工藤文三 初等中等教育研究部長 大阪大学社会経済研究所 大竹文雄 教授 文部科学省初等中等教育局 望月昌代 教科調査官 <コーディネーター>金融広報中央委員会事務局 金融教育プラザリーダー岡崎竜子 <概要>各パネリストから、新学習指導要領において金融教育に関する記述の充実が図られた背景、若年層に対する経済や金融に関する教育の重要性、これから金融教育を実践しようとされている先生方へのアドバイスなどについて、ご発言いただきました。

<p>3 . D V D 上映(昼食休憩時) 当委員会の D V D 「見てわかる！金融教育 授業の進め方」を各分科会会場で上映しました。</p> <p>4 . 分科会 金融教育に取り組まれている先生方に、小学校・中学校・高等学校・大学の4分科会で、実践事例の発表とワークショップの指導を行っていただきました。</p> <p>小学校分科会 進行およびコメント：北俊夫(國立館大学教授) (1)「『需要と供給ってなに？』からはじまる経済学習の単元開発～『西小プロジェクト 2011 私たちの暮らしと経済』の実践を通して～」 講師 殿岡正英(静岡県焼津市立大井川西小学校 教諭) (2)「買い物のスペシャリストになろう」 講師 川地由美(香川大学教育学部附属高松小学校 教諭)</p> <p>中学校分科会 進行およびコメント：工藤 文三(國立教育政策研究所 初等中等教育研究部長) (1)「世界の国々とお金とのつながり」 講師 永野俊治(福岡県小竹町立小竹中学校 教諭) (2)「レシートから経済が見える」 講師 山崎二朗(千葉市教育委員会)</p> <p>高等学校分科会 進行およびコメント：大杉昭英(岐阜大学教育学部 教授) (1)「イベント及び空間整備の企画立案・実践を通じた金融教育の取り組み」 講師 菅沼雄介(山梨県立富士北稜高等学校 教諭) 中村光夫(山梨県立富士北稜高等学校 教諭) (2)「消費者センスを高めよう」 講師 清水ゆかり(前 東京都立忍岡高等学校長)</p> <p>大学分科会 進行およびコメント：西村 隆男(横浜国立大学教育人間科学部 教授) (1)「大学生の生活設計と卒業までの成長値～『これであなたもひとり立ち』を活用した金融教育～」 講師 上村協子(東京家政学院大学現代生活学部 教授) (2)「教員養成における金融教育の展開～体験型授業による実践的教員養成～」 講師 水野英雄(愛知教育大学教育学部 准教授)</p> <p>5 . 資料コーナー 当委員会ならびに関係団体の金融教育に関する刊行物をお持ち帰りいただくコーナーを設置しました。</p> <p>6 . 付属プログラム 7月30日(月)と8月1日(水)に、本セミナー参加者のうちご希望の方を対象として、日本銀行本店および東京証券取引所を見学するプログラムを用意しました。2日間で約90名の方が参加されました。</p>	
--	--

(「2012年度 教員のための金融教育セミナー」参照先)
<http://www.shiruporuto.jp/event/2012/12semi/index.html>

(4)「消費者教育フェスタ」への参加

【目的】

「消費者教育フェスタ」は、消費者教育の推進のため、官民の様々な主体が実施している消費者教育の取組み等を地方公共団体、学校、大学等の関係者等に紹介することを目的とし、文部科学省主催で2010年度から開催されています。当委員会は、これまでの取組みを紹介する目的で、2012年度も参加しました。

【内容】

2012年度は、神戸市と東京で開催されました。

2013年1月30日(水)・31日(木)に神戸市で開催されたフェスタには、当委員会事務局の岡崎金融教育プラザリーダーが両日参加し、1日目のミニパネルディスカッションで、学校・教育委員会セクターのメンバーとして当委員会の学校における金融教育の取組みや学校における消費者教育の課題等を紹介しました。また、資料提供コーナーで当委員会作成資料の提供を行いました。

2013年2月27日(水)・28日(木)に東京で開催されたフェスタにも、岡崎プラザリーダーが両日参加し、1日目のワークショップで、児童グループにおいて足立区が作成した消費者教育ボードゲームを使った事業計画を他メンバーとともに立案・発表しました。また、資料提供コーナーでは当委員会作成資料の提供を行いました。

(5)教職課程を有する大学等における講義

大学等からの要請に応じ、8つの大学等において、当委員会事務局スタッフが、教員を目指す学生等を対象に金融教育に関する講義を実施しました。

2. 啓発資料・教材、情報発信

(1)「くらし塾 きんゆう塾」の季刊発行

【目的】

「くらし塾 きんゆう塾」は、金融広報中央委員会の広報誌として、幅広い層を対象に、当委員会の目指す金融広報および金融教育の考え方や当委員会活動をわかりやすく伝えることを目的に、3か月に1回発行しています。とくに、2012年度は高齢者の方等への見やすさに配慮し、B5判からA4判に大判化しました。またシニア層とその家族向けに「そこが知りたい！くらしの金融知識」、勤労世帯向けに「働く人のライフ＆マネープラン」、若者向けに「ひとり立ち生活、ここがポイント」など、読者の特性ごとの情報ニーズに応じた誌面作りを行いました。

【内容】

本年度は、次の構成で作成しました。

種類	構成内容
金融知識等の解説	<ul style="list-style-type: none">・そこが知りたい！くらしの金融知識 「老後資金の資産運用」、「離れて暮らす親の介護を考える」、「定年や退職時にやるべきこと」、「60歳からはじめるインターネットバンキング」・まんが わたしはダマサレナイ！！ 「家乗っ取り詐欺」、「『サクラサイト』のメール交換詐欺」、「投資詐欺被害の救済を装う詐欺」、「外国通貨買取り詐欺」・ひとり立ち生活、ここがポイント 「ひとり暮らしの生活費」、「クレジットカードの基礎知識」、「オイシイ話にご用心」、「リスクに備える」・働く人のライフ＆マネープラン 「結婚にかかる費用」、「出産・育児にかかる費用」、「住宅購入と賃貸生活」、「介護にかかる費用」
金融教育の実践事例紹介	<ul style="list-style-type: none">・金融教育の現場レポート
生活やおかねに関する話題等	<ul style="list-style-type: none">・巻頭インタビュー（生きる力を考える内容等）・連載エッセイ「会計士のやさしいお金のお話」・「衣・食・住・遊 あの時代この時代」（若者ファッショングの移り変わり、学校給食の移り変わり、暮らしとともに変わる住まい、移り変わる子どもの遊びと場）、「たべもの百面相」（漬けもの、カレー、ラーメン、お菓子）

当委員会の活動を紹介する記事	<ul style="list-style-type: none"> ・中央委員会の活動紹介 ・各地委員会事務局員の活動紹介、金融広報アドバイザーの紹介 ・知るばるとホームページピックアップ！ ・「おかねのね」の紹介
----------------	--

(2)「金融商品なんでも百科」の見直し

【目的】

消費者にとって、自分のライフプランやリタイアメントプランのニーズに適合した金融商品や金融機関を、適切に「自己責任」で選択することが必要になっています。こうした選択を適切に行っていくために、それぞれの金融商品のメリットやリスク、金融トラブルを回避するための基礎知識などについて解説した資料です。

「金融商品なんでも百科」は、2年に1回のペースで改訂しており、今年度は「平成25・26年用」として改訂しました。

【内容】

金融商品選択にあたっての考え方や、消費者が利用できる主な金融商品について、選び方のポイントや、それぞれの基本的特徴、リスク、税金、関連する法律などについて、中立・公正な立場からわかりやすく解説しています。さらに、金融商品や金融トラブルに関する問い合わせ先、インターネット上のホームページも紹介しています。「平成25・26年用」は、次の構成で作成しています。

第1部：金融商品の選び方・組合せ方

- ・金融商品の選び方・組合せ方
- ・金融商品を巡る環境の変化と自己責任時代
- ・ライフプランにあった金融商品を選ぶ方法
- ・金融機関破綻時の金融商品の保護について
- ・金融機関選びのポイント

第2部：金融商品大百科

- ・預貯金、ゆうちょ銀行の貯金、信託、公社債、株式、投資信託、保険・共済、財形貯蓄、そのほかの金融商品など
- ・金融商品と税金
- ・ローン（住宅ローン以外）クレジット、住宅ローン

参考情報：金融なんでも情報

- ・くらしに身近なおかねについてのホームページ

・金融取引に関する相談 等

(3)「暮らしと金融なんでもデータ」の見直し

【目的】

各個人が金融経済情報を積極的に収集していくことがますます重要となっている中、その手掛かりとして、暮らしと金融に関連した主要データを幅広く提供することを目的とするデータ集です。

【内 容】

冊子形式での情報提供に加えて、当委員会ホームページにおいて、利用者の利便性を高めるために、分析に利用しやすいデータ・ファイル形式による情報提供を行いました。

(4)「金融学習ナビゲーター」の見直し

【目的】

金融リテラシーが、人々の豊かな暮らしや経済・社会の持続的発展を実現していく上で重要であるとの認識が高まっている中で、当委員会および当委員会と連携している関係諸団体・関係行政機関等が提供している金融学習用の教材や各種事業などをひとつの冊子に取りまとめてご紹介するために、この刊行物を作成しています。

【内 容】

金融経済環境の変化や、インターネットを活用した情報提供の拡大などを背景に、多くの教材や事業等が改訂・見直し・新設されたことを踏まえて、本年3月に約6年振りとなる改訂を行いました。

今回の改訂にあたっては、収録する教材や事業を増やすとともに、これらを対象者別に取りまとめたほか、対象者分類として新たに「教育関係者」「高齢者」を加えるなど、様々な層の方々が教材や情報をより探しやすい誌面構成としました。

なお、この刊行物は、ホームページ上にも掲載しており、教材や情報に直接アクセスすることができるようになっています。

(5)「金融教育の手引き」の発刊

2013年3月に「金融教育の手引き」を発刊しました。この手引きは、金融教育に少しでも関心がある方、「金融教育をはじめてみよう」と考えている方に向けて、「金融教育の進め方」をご案内したものです。

以下のような質問に回答する形で、金融教育の進め方についてご案内しています。

1. 金融教育とは？
 2. なぜ、金融教育が必要なの？
 3. どんな内容を学ぶの？
 4. 学校で教える必要があるの？
 5. どの教科等で教えるの？
 6. 時間が限られている。どう工夫すればよいか？
 7. 消費者教育との関係は？
 8. キャリア教育との関係は？
 9. 食育、環境教育、法教育との関係は？
 10. どんな教材があるの？
 11. 教材をどのように使えばいいの？
 12. 例えば、どんな実践事例があるの？
- (参考) 金融教育の体系や、各学校段階でのポイントは？

(6) ホームページを通じた情報発信

【目的】

当委員会では、暮らしに役立つ身近な金融経済情報をタイムリーにかつ幅広く提供するため、1997年度からホームページを開設しています。

【内容】

本年度は、インターネット利用環境に関する最近の情勢を踏まえ、利用者の利便性を向上させる観点から、YouTubeでの動画配信を開始したほか、電子ブック形式でのコンテンツ提供も試行的に開始しました。

以上のほか刊行物改訂に伴う更新やイベント告知などを合わせて毎月約18件の新着情報を配信し、本年度のアクセス件数は累計1,416万件、1日平均3万9千件（前年度は1日平均3万5千件）となりました。

なお、上記アクセス件数のうちYouTubeでの動画再生回数は6万9千件となりました。

【トップページ】

金融庁監修中央委員会
（財團法人日本銀行情報センターは運営）

くらしに役立つ身近な金融情報、お金に関する知識の情報サイト。知るばるとの「ばると」とは「港」、「入り口」です。

Google®カスタム検索 サイトマップ 新着情報配信メール English

金融と経済のしくみ
金融商品や金融取引の基本がわかる！お役立ちデータも満載

暮らしのマネー情報
年金や税金など身近なお金の問題をわかりやすく解説

教える・学ぶ
こどもから大人までお金について学べるコーナー

暮らしのお役立ちツール
家計や資産管理に関する便利で簡単な診断ツールやシミュレーション

お知らせ・イベント
知るばるとからのお知らせや講演などのイベント情報

知るばるとについて
刊行物のご案内、ビデオ貸出し、入札情報、リンク集など

東日本大震災関連の主な情報源を集めました。

○ キッズ
クイズやビデオで、楽しくおかねにくらしなろう！

○ YOUNG
マネーの知識を手にいれて、ひとり立ちの一歩を踏み出そう。

○ ファミリー
収支、子育て、住宅など、あなたのマネーライフをサポート

○ シニア
年金、相続、保険など、いきいきとしたシニアライフを支える情報

○ 金融教育
教材や事例など、金融教育関係者の活動を支援する生組が運営

What's New

○ 「親子のためのおかね学習フェスタ」を全国5か所で開催（8月～12月）<http://www.festa2013.net/>

○ 8月19日 「親子のためのおかね学習フェスタ^{北海道}」の募集を開始しました。<http://www.festa2013.net/hokkaido/>

○ 8月19日 「親子のためのおかね学習フェスタ^{北海道}」開催のプレスリリース（PDF 1,880KB）を掲載しました。

○ 8月8日 中島隆信氏によるエッセイ「経済学的思考のススメ」を掲載しました。
・ [第1回 家族の財布は誰のもの？](#) (PDF 404KB)

○ 8月1日 今月のクイズ「金融トラブル編」を改訂しました。

○ 7月31日 「金融教育なんでも百科（平成25・26年用）」を

○ 今月のクイズ Quiz!
○ おかねくね
○ 金融学習
○ 刊行物のご案内
○ はじめての金融教育
○ くらし
○ YouTube

○ 今月の問題は金融トラブル編です。
○ 題子で楽しもう！
○ 金融を学ぶリンク集
○ 便利な資料がいっぱい
○ ワークシート付き入門ガイドと役立つ実践事例を紹介
○ 知るばるとの広報誌です
○ 知るばるとのYouTube公式チャンネル

人気の無料各種計算ツールは「暮らしのお役立ちツール」で。生活設計診断 / 資金プランシミュレーションなど。
よくある質問と回答（FAQ）では、当委員会へのお問い合わせのうち、多くいただく質問に回答しています。

スマートフォンでマンガ！電子ブックで金融トラブル防止について学ぼう。
詳しくは以下のリンク（パソコン）またはQRコード（スマートフォン）から。

○ わたしはダメサレナイ！！電子ブック版
・ 貨金属などの防犯押し貰い詐欺
・ リフォーム詐欺
・ 振り込め詐欺（還付金詐欺）
・ 私設投資信託詐欺
・ 被害取引詐欺
・ ロコ・ロンドン金取引
・ 「サクラサイト」のメール交換詐欺
・ インターネットショッピング現金化トラブル
・ 窓空請求詐欺
・ インターネット不正融資
・ 未成年者のサイトアクセス、契約による高額請求トラブル



(7) ビデオ・D V D の貸出

【目 的】

金融経済情報の提供や金融経済学習の支援に関して、視聴覚教材を用いてよりわかりやすく効果的に行うことの目的としています。

【内 容】

視聴覚教材として作成・購入したビデオ・D V D教材を、都道府県金融広報委員会、日本銀行支店・事務所を通じて一般の方々へ貸出しています。また、一部の作品については、当委員会のホームページで視聴することも可能です。

【2012 年度中に貸出した主なビデオ】

題 名
ホシガリ姫の冒険
UFO につかまつた子供たち
100 万円あったら、どうする？
ボクの犬小屋日記
契約って何？～消費者としての自立～
お金って何？～リスクと自己責任～

3. コンクール

(1) 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

【目的】

学校教育における「金融教育」の重要性が指摘される中、「金融教育」のあり方に關して、学校教育関係者に關心を高めていただき、また、議論を深める契機としていたくことを目的に、金融経済教育に関する実践報告や研究結果、提言などをテーマとする小論文・実践報告コンクールを実施しました。

【内容】

全国の幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校教員、教職課程在籍または教職を目指す大学生、大学院生、大学教官など研究者を対象に、金融経済教育に関する実践報告や研究結果、提言などを小論文部門と実践報告部門に分けて募集しました。当コンクールは「金融教育を考える」小論文コンクールとして8回を重ねた後、本年度、名称を金融教育に関する小論文・実践報告コンクールに変更し、通算で9回目を迎えました。

【審査員】

(敬称略)

阿部信太郎	城西国際大学准教授
工藤 文三	国立教育政策研究所初等中等教育研究部長
河野 公子	聖徳大学大学院講師
西村 隆男	横浜国立大学教授
安川 尚宏	NHK制作局第1制作センター経済・社会情報番組部長
鮎瀬 典夫	日本銀行情報サービス局長
小林 信介	金融広報中央委員会会長

【応募状況と審査結果】

本年度の応募総数は40編でした(前年度は26編)。審査の結果は以下のとおり、特賞1編(小論文部門)、優秀賞4編(小論文部門・実践報告部門各2編)、奨励賞5編(小論文部門3編、実践報告部門2編)を入賞作品として表彰しました。

【表彰論文】

(特賞) 1編【小論文部門】

(敬称略)

入賞者	作品名
兵庫県 神戸山手大学現代社会学部准教授 飯嶋 香織	学校における金融教育の成果 お金の管理の視点から

(優秀賞) 4編

(敬称略)

入賞者	作品名
【小論文部門】 栃木県 佐野日本大学中等教育学校 一ノ瀬 藤明	経済ニュースから学ぶ金融経済教育 ～生きた経済を学ぶためには～
【小論文部門】 神奈川県 神奈川県立厚木商業高等学校 岩村 夏樹 勝山 光仁	生徒発想主導型金融教育への接近 「伝え・学ぶ」から「考え・行動する」金融教育へ
【実践報告部門】 京都府 京都教育大学附属桃山小学校 池田 恭浩	お金の三つの役割の学習
【実践報告部門】 京都府 京都市立伏見中学校 奥村 光太郎	地理的・歴史的分野に取り入れた経済・金融教育の実践について

(奨励賞) 5編

(敬称略)

入賞者	作品名
【小論文部門】 北海道 北海道教育大学教育学部講師 藤本 将人	社会科教育における金融教育 賢い消費者市民を育成するために
【小論文部門】 神奈川県 神奈川県立横浜修悠館高等学校 非常勤講師 小野 裕子	(家計のマネジメントを考える) 生涯の経済設計ができる力を！
【小論文部門】 岐阜県 岐阜市立東長良中学校 後藤 喜朗	学校の全教育活動を通した金融教育の推進
【実践報告部門】 北海道 旭川英語教育ネットワーク (AEEN)単元・教材開発チーム 北見市立北小学校 川崎 理恵 旭川市立北光小学校 小山 俊英 旭川市立近文小学校 清水 忠明 上富良野町立上富良野西小学校 小谷 麻美	児童が主体的に学ぶ金融教育の実践 ～円環型経済教育の流れを基盤とした単元構成の実際～
【実践報告部門】 千葉県 千葉大学大学院教育学研究科 修士2年 深川 愛子	小学校における地方銀行の役割を理解させる 金融経済教育の授業開発

(第9回 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール参考先)

<http://www.shiruporuto.jp/teach/school/kyoin2012/index.html>

(2)「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

【目的】

高校生・高等専門学校生・高等専修学校生に、金融や経済について関心を持っていただき、自身の考えを論理的に記述することを通じて思考力や表現力を高めていただくことを目的としています。

【内容】

高校生および高等専門学校生・高等専修学校生を対象に5つのテーマを設け、小論文形式で募集しました。当コンクールは「金融と経済の明日」高校生小論文コンクールとして9回を重ねたのち、本年度、名称を「金融と経済を考える」高校生小論文コンクールに変更し、通算10回目を迎えるました。

【募集テーマ】

- (1) あなたのライフプランと働くことについて考えよう
- (2) 日本のこれからを考える
- (3) 日本経済を活性化する将来有望な産業とは
- (4) 消費者としてのルール
- (5) 自由テーマ

【審査員】

(敬称略)

伊藤元重	東京大学大学院経済学研究科教授兼任総合研究開発機構理事長
細野真宏	Hosono's Super School 代表
天野晴子	日本女子大学教授
岡田大	金融庁総務企画局政策課金融企画管理官
永井克昇	文部科学省初等中等教育局視学官
小林洋司	全国公民科・社会科教育研究会会長
鮎瀬典夫	日本銀行情報サービス局長
小林信介	金融広報中央委員会会長

【応募状況と審査結果】

本年度は学校応募が81校、個人応募が33件で計2,062編の応募をいただきました(前年度は、学校応募65校、個人応募26件で計1,579編)。

審査の結果は以下のとおり、特選5編、秀作5編、佳作49編を入賞作品として表彰しました。このうち、特選、秀作、学校賞^(注)の入賞結果は、次のとおりです(佳作入賞者については当委員会ホームページをご覧ください)。

(注)学校賞は、特選受賞者在籍校にさし上げています。

【表彰論文】

(特選) 5編

(敬称略)

入賞者	作品名
金融担当大臣賞 愛媛県 愛媛県立新居浜南高等学校 2年 加地 由華	見えること見えないこと
文部科学大臣賞 大分県 大分東明高等学校 2年 向江 梨見	働くということ
日本銀行総裁賞 静岡県 静岡県立清水東高等学校 3年 城内 香葉	「賢い消費者になる」ために
全国公民科・社会科教育研究会会長賞 大分県 大分東明高等学校 2年 赤峰 希美	不便な生活の中に見えてくる本当の快適さ
金融広報中央委員会会長賞 静岡県 静岡県立浜松西高等学校 1年 永田 真理奈	森林価値の再発見

(秀作) 5編

(敬称略)

入賞者	作品名
福岡県 福岡県立福岡高等学校 1年 折居 優太	ロボットをとなりに
大分県 大分県立日田高等学校 2年 平川 みのり	いま、もう一度ふるさとをみつめる
東京都 中央大学高等学校 3年 小南 勇介	「消費者」として
東京都 中央大学高等学校 3年 田村 千里	笑って 生きて 活ける
新潟県 新潟県立長岡高等学校 3年 鈴木 里奈	自分らしく

(学校賞)

愛媛県 愛媛県立新居浜南高等学校
大分県 大分東明高等学校
静岡県 静岡県立清水東高等学校
静岡県 静岡県立浜松西高等学校

(第10回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/teach/yomu/ron2012/index.html>

(3)「おかねの作文」コンクール

【目的】

中学生に金融や経済に興味を持っていただき、それを作文に仕上げることを通じて考える力、伝える力を養っていただくことを目的としています。

【内容】

中学生を対象に 5 つのテーマを設け、作文を募集しました。当コンクールは本年度で 45 回目となります。

【募集テーマ】

- (1) 活きたおかねの使い方とは
- (2) 地域（経済）を元気にする取り組み
- (3) 私のおかねのルールやわが家の約束事とは
- (4) 将来の夢の実現とおかねの関わり
- (5) 自由テーマ

【審査員】

(敬称略)

大野仁	金融庁総務企画局政策課課長補佐
永井克昇	文部科学省初等中等教育局視学官
武田岳彦	社団法人 日本 P T A 全国協議会会長
吉田和夫	全日本中学校国語教育研究協議会会長
橋口和	日本銀行情報サービス局金融広報課長
平沢光弘	金融広報中央委員会事務局次長

【応募状況と審査結果】

本年度は学校応募が 390 校、個人応募が 61 件で計 3,126 編の応募をいただきました（前年度は学校応募 573 校、個人応募 46 件で計 4,120 編）。

審査の結果は以下のとおり、特選 5 編、秀作 5 編、佳作 50 編を入賞作品として表彰しました。このうち、特選、秀作、学校賞^(注)の入賞結果は、次のとおりです（佳作入賞者については当委員会ホームページをご覧ください）。

（注）学校賞は、特選受賞者在籍校にさし上げています。

【表彰作品】

(特選) 5編

(敬称略)

入賞者	作品名
金融担当大臣賞 東京都 学習院女子中等科 3年 芳川 真穂	生き方につながるお金の使い方
文部科学大臣賞 東京都 中野区立北中野中学校 2年 濑崎 章吾	イギリスで貯めたお小遣い
日本銀行総裁賞 千葉県 浦安市立明海中学校 3年 石田 彩果	トランペット魂の導き
日本PTA全国協議会会长賞 宮崎県 宮崎第一中学校 3年 松浦 史	我が家の「生きたお金」
金融広報中央委員会会长賞 静岡県 浜松市立三方原中学校 2年 荒井 佑奈	思いやりの価値

(秀作) 5編

(敬称略)

入賞者	作品名
東京都 早稲田大学高等学院中学部 1年 古矢 俊太	お金は希望を届ける
神奈川県 横浜市立市ヶ尾中学校 2年 大道 希音	風呂掃除から見えてきたもの
鳥取県 米子市立淀江中学校 2年 小谷 緑	お金と幸せ
鹿児島県 鹿児島市立鹿児島玉龍中学校 2年 盛山 桜子	街の活性化のために
奈良県 河合町立河合第二中学校 3年 船崎 菜月	目を覚ませ！貯金箱のお金

(学校賞)

東京都 学習院女子中等科
東京都 中野区立北中野中学校
千葉県 浦安市立明海中学校
宮崎県 宮崎第一中学校
静岡県 浜松市立三方原中学校

(第45回「おかねの作文」コンクール参考先)

<http://www.shiruporuto.jp/teach/yomu/saku2012/index.html>

調査研究活動

1. 金融力調査

【目的】

この調査は、わが国の18歳以上の個人のおかねや金融に関する知識や行動の特色を把握するために、2011年度に当委員会として初めて実施したものです。諸外国での取組みを参考にしつつ、より効果的かつ効率的な金融広報活動を実施していくための基礎情報を収集することを目的としています。

【内容】

この調査では、自身の将来に対する資金的な備え、自身の金融に関する知識や判断能力について（自己評価）などを問う設問や、金利やインフレなどについての基礎的な知識等を問う設問を設けました。また、金融商品や取引に関する意思決定の根拠や、金融に関する情報の入手方法に関する設問を設けました。

この調査は2011年11～12月に実施し、その結果を2012年9月に公表しました。

（「金融力調査」参照先）

<http://www.shiruporuto.jp/finance/chosa/kinyuryoku2011/index.html>

2. 家計の金融行動に関する世論調査

【目的】

この調査は、当委員会が、家計の資産・負債や家計設計などの状況を把握し、これらの公表を通じて金融知識を身につけることの大切さを広報すること、家計行動分析のための調査データを提供すること、の2つを目的として毎年実施しています。

【内容】

本年度は、家計の金融資産・負債や家計設計の状況などについて、全国の二人以上世帯8千世帯を対象に標本抽出調査し、約5割の世帯（3,932世帯）から回答を得たほか、単身世帯調査については、インターネット調査により2,500モニターを対象に調査しました。

・二人以上世帯の調査概要

調査の内容	<p>(主な調査項目)</p> <p>(1) 金融資産の状況等 金融資産の有無、金融資産保有額、内訳等</p> <p>(2) 金融負債の状況等 借入金の有無、借入金残高、借入の目的等</p> <p>(3) 実物資産・住居計画 住居の状況、住宅取得必要資金、この一年以内の土地・住宅の取得、増改築、売却の有無等</p> <p>(4) 生活設計(老後、消費含む) 家計全体のバランス、過去一年間の家計運営、老後の生活についての考え方等</p> <p>(5) 決済手段 日常的な支払いの主な資金決済手段、平均手持ち現金残高等</p> <p>(6) 金融制度等 預金保険制度の認知度、金融機関の選択理由等</p>
調査対象者の抽出方法	層化二段無作為抽出法により全国から500の調査地点を選び、各調査地点から無作為に16の世帯(二人以上世帯)を選ぶことによって計8,000の調査対象(標本)を抽出。
調査の方法	<p>(1) 訪問と郵送の複合・選択式によって調査依頼・回収しました。</p> <p>(2) 2012年調査の実施および結果の集計は、(株)日本リサーチセンターに委託しました。</p>
調査の時期	2012年6月15日～7月24日
回収状況	<p>標本数：8,000名</p> <p>回収数：3,932名</p> <p>回収率：49.2%</p>
調査結果の公表	調査結果は、当委員会のホームページで公表した(2012年10月31日)ほか、冊子を作成しました。

・単身世帯調査の概要

調査の内容	<p>(主な調査項目)</p> <p>上記の二人以上世帯調査と同じ。</p>
調査対象モニターの選定方法	<p>(選定方法の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20歳以上70歳未満で、単身で世帯を構成する者。 ・モニター数は2,500を有効回収数として確保する設計とし、直近(2005年)の国勢調査の単独世帯データにおける地域・年代・男女別の構成比に基づき回答者割付を行いました。
調査の方法	<p>(1) インターネットモニター調査の方法によって、調査依頼・回収しました。</p> <p>(2) 2012年調査の実施および結果の集計は、(株)インテージに委託しました。</p>

調査の時期	2012年6月22日～7月4日
回収状況	有効回収モニター数：2,500名
調査結果の公表	上記の二人以上世帯調査と同じ。

(「家計の金融行動に関する世論調査」参照先)

二人以上世帯調査：

http://www.shiruporuto.jp/finance/chosa/kyoron_futari/index.html

単身世帯調査：

http://www.shiruporuto.jp/finance/chosa/kyoron_tan/index.html

3. 海外の金融教育の実情調査、国際機関等との情報交換

【目的】

当委員会では、海外における金融教育・金融知識普及活動を巡る状況を紹介することを通じて金融知識を身につけることの大切さを広く国民に伝えるとともに、当委員会の活動の参考とするため、金融教育に関する国際会議への参加を通じて、海外における金融教育の動向に関する情報収集・調査を行っています。また、わが国における取組みを海外諸国における金融教育推進の参考に供するため、国際機関等の会議に積極的に参加するほか、海外政府関係者の来日に際し情報を提供しています。

【内容】

本年度は、当委員会事務局スタッフがO E C D主催の「金融教育に関する国際ネットワーク会議」等の国際会議に出席し、各国における金融教育に関する活動状況について情報収集を図るとともに、わが国における金融教育に関する情報を提供し、参加者との意見交換に努めました。この間、「金融教育に関する国際ネットワーク」が作成・公表し、G 2 0 ロスカボス・サミットの承認を得た「金融教育のための国家戦略に関するハイレベル原則」を邦訳し、当委員会ホームページに掲載しました。また、ケニア政府関係者の来日に際し、わが国における金融教育への取組みについて情報を提供しました。

都道府県金融広報委員会を通じた活動

1. 概要

【目的】

金融広報中央委員会として、都道府県金融広報委員会の活動を支援することを通じ、金融に関する正確な知識等を全国的に普及させることを目的としています。

【内容】

当委員会の活動は、全都道府県にある金融広報委員会（以下「各地委員会」という）と密接に連携しながら推進されています。各地委員会は、各都道府県、地方財務局・財務事務所、日本銀行支店・事務所や、銀行、信用金庫、信用組合、証券会社、保険会社などの業界団体等から選出された委員から構成され、日常的な活動は主に、県または日本銀行支店・事務所に置かれている事務局によって行われています（資料1参照）。

各地委員会では、当委員会と連携しながら、金融に関する正確な知識等を当該地域の方々に幅広く普及させるため、独自の活動を展開しています。各地委員会の活動は、地域毎に異なる諸条件や現状を踏まえ最適な方法が模索されるため、内容は必ずしも一律ではありませんが、「金融知識の普及」と「金融教育の支援」を軸に活動を展開する委員会が多くみられます。

【当委員会による各地委員会への支援の概要】

各地委員会では、各都道府県民の方々への啓発資料の提供のほか、大規模な講演会・シンポジウム、中小規模の講座やセミナーの開催といった活動にも積極的に取組んでいます（資料2参照）。こうした活動を支えるものとして、（1）金融広報アドバイザー制度、（2）金融学習グループ制度、（3）金融・金銭教育研究校制度、（4）金融教育研究グループ制度、（5）金融学習特別推進地区制度があります。当委員会では、これらの活動や制度が有効かつ円滑に運用されるように資金的な援助や様々なノウハウを提供しているほか、資料・教材等を配付するなどの支援を行っています。

各制度の概要は以下のとおりです。

2. 金融広報アドバイザー制度

金融広報アドバイザー制度とは、地域の方々に対し、中立公正な立場から、客観的で正確な金融関連知識を直接提供するために、各地委員会が金融経済に関する有識者などを金融広報アドバイザーとして選任し、当委員会が委嘱する制度です。各地委員会で選任・委嘱されている金融広報アドバイザーは、2013年3月31日現在、総勢473名です。金融広報アドバイザーは全国各地で、金融・経済の仕組み、資産運用、生活設計、金融商品、年金、保険、金融トラブル、金融・金銭教育等をテーマにした講演会や講座・講習会の講師をはじめとする広報活動で活躍しています（本年度中の講師派遣件数は3,597回）。

なお、当委員会では、金融広報アドバイザーの活動に関する情報や資料を各地委員会に提供するなどの支援を行っています。

3. 金融学習グループ制度

金融学習グループ制度とは、金融経済知識の習得のために自主的かつ意欲的に学習活動に取組むグループに対して、各地委員会が活動目的、学習内容を吟味したうえで、原則として1年間（活動実績等を踏まえて2回まで延長可）「金融学習グループ」として認定し、金融広報アドバイザーの派遣や資金的な援助などを行う制度です。2013年3月31日現在、全国で54先が金融学習グループとして認定され、金融経済の基礎知識、金融商品のしくみ、ライフプランの立て方、年金・税金・保険のしくみ、子どもへの金銭教育などをテーマに学習活動が行われています。

なお、当委員会では、各地委員会が行う金融学習グループへの資金的援助を行っています。

4. 金融・金銭教育研究校制度

金融教育研究校あるいは金銭教育研究校（以下「研究校」という）制度とは、学校や幼稚園において、金融や金銭に関する具体的な教育を実践し、その効果的な方法を研究していくことを目的に、各地委員会が幼稚園または学校を1年ないし2年間、研究校として委嘱する制度です。高等学校、中学校、小学校等において、金融・経済に関する正しい知識の習得に力点を置くものを「金融教育研究校」、中学校、小学校、幼稚園等において、金銭や物に対する健全な価値観の養成に力点を置くものを「金銭教育研究校」として委嘱しています。当委員会および各地委員会では、研究校に対して、カリキュラムの作成や金融広報アドバイザーを含む講師の派遣、授業で用いる教材・資料等の提供、授業を進めるうえでの各種技術指導等の支援を行っているほか、研究・実践に必要な費用の一部を補助しています。

2013年3月31日現在、全国40都道府県で計102校の研究校が委嘱され、その成果等に関する情報については、各地委員会によって開催される金融・金銭教育協議会や金融教育公開授業における発表等を通じて共有され、活動内容の向上に役立てられています。

(参考)研究校の委嘱状況

	高等学校	中高一貫	中学校	小中学校	小学校	幼稚園
金融教育研究校	36校	1校	15校		7校	
金銭教育研究校			7校	1校	30校	5校

5. 金融教育研究グループ制度

金融教育研究グループ制度とは、主として高等学校、中学校において公民科、家庭科、商業科や総合的な学習の時間等を担当する教師が、学校横断的な研究会・グループ等により、金融教育の実践・研究活動を行う際、金融教育研究校に準じて研究を委嘱し、当委員会および各地委員会が、ノウハウや資金的な援助を行う制度です。2013年3月31日現在で全国5県において5グループが金融教育研究活動に取組んでいます。当委員会および各地委員会では、この制度を通じ、実際に教育現場を担っておられる先生方に金融教育への理解を深めていただくとともに、より効果的な授業が幅広く行われるように支援しています。

6. 金融学習特別推進地区制度

金融学習特別推進地区（以下「特区」という）制度とは、市区町村またはその中の一定地域が、各地委員会および当委員会と一体となって、地域ぐるみ（住民、学校、PTA、各種団体など）で継続的な金融学習への取組みを推進することを目的に、2004年度に設けられた制度です。同制度の委嘱は各地委員会が行い、委嘱期間は原則として2年間です。

2012年度においては、東京都足立区が、講演会や講座、区民まつり、標語コンテスト等を開催するなど、暮らしに身近な金融の学習活動を活発に行いました。この活動に対し、当委員会が助成を行ったほか、東京都金融広報委員会がノウハウの提供や同区主催のイベントへの参加（「一億円の重さ体験コーナー」や「クイズコーナー」を設けた展示ブースの出展、金融学習に関する「親子見学ツアー」の実施等）を通じて支援を行いました。

その他の活動

1. 各地教育委員会等への訪問

当委員会の活動方針の一つとして掲げた「教育関係者への積極的な情報提供や協力関係の構築」を推進するため、当委員会事務局スタッフが各地委員会事務局と連携しつつ、全国7地区の教育委員会等を訪問し、学校における金融教育の重要性や当委員会・各地委員会が実施している金融教育支援のための様々な取組みに関する情報提供や意見交換を行いました。

2. 金融経済教育研究会への参画

先般の金融危機を踏まえ、金融リテラシーの向上が重要であるとの認識が、OECDやG20等における国際的な議論において共有され、金融経済教育の一層の推進が求められる状況下、2012年11月、金融庁金融研究センターに、「金融経済教育研究会」が設置され、金融経済教育の現状と課題に関する議論が行われました。本研究会は、有識者、関係省庁、関係団体から構成され、当委員会からは、事務局長がメンバーとして参加しました。

本研究会は、2013年4月まで合計7回の会合が開催され、同月「金融経済教育研究会報告書」が取りまとめられ、公表されました。本報告書では、金融リテラシーにおいて行動面を重視することが謳われ、最低限習得すべき金融リテラシーが4分野15項目に整理されるなど、今後の金融経済教育の進め方についての方針が示されました。

(当委員会では、本報告書の方針を推進するにあたり検討課題として示された諸課題への取組みについて審議するため、「金融経済教育推進会議」を設置し、2013年6月に第1回会合を開催しました。)

3. 消費者教育推進会議への参画

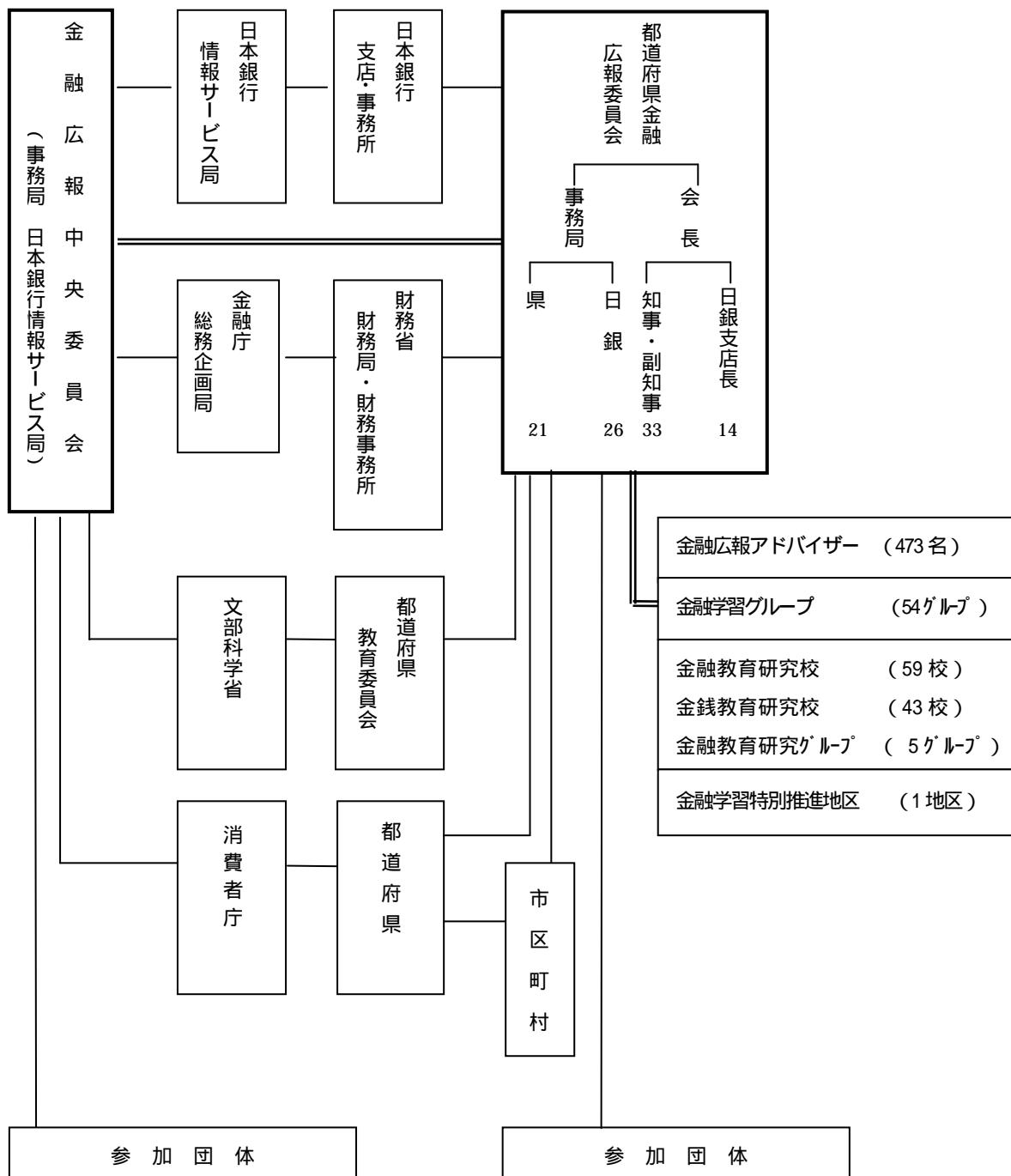
「消費者教育の推進に関する法律」が2012年8月に成立し、同年12月に施行されました。同法では、政府が「消費者教育の推進に関する基本的な方針」を定めることとされており、この基本方針を作成する際には、「消費者教育推進会議」等の意見を聞くこととされています。

金融広報中央委員会会長は、内閣総理大臣から「消費者教育推進会議」の委員に任命され、2013年3月6日に開催された第1回会議から参加しています。

(その後、「消費者教育の推進に関する基本的な方針」は2013年6月に閣議決定されました。)

以上

(資料1) 金融広報中央委員会活動の相互連携図



<2013年3月31日現在>

(資料2) 主な金融経済等講演会の開催状況

(敬称略)

日 時	開催地	講 師 名	テ ー マ
2012年 5月12日(土)	和歌山県 和歌山市	紀藤 正樹 (弁護士)	「悪質商法の実態と撃退法」
5月24日(木)	広島県 広島市	山田 真哉 (公認会計士、税理士、作家)	「お金の壺 ~家計管理のコツ~」
6月24日(日)	京都府 八幡市	蟹瀬 誠一 (国際ジャーナリスト、明治大学国際日本学部長)	「グローバル時代の金融経済と日本の行方」
6月27日(水)	福岡県 久留米市	ダニエル・カール (タレント、翻訳家)	「ダニエルが教えるお金の魅力 ~父親に教えられ我が子に伝える『お金の教育』~」
7月3日(火)	鹿児島県 鹿児島市	いちのせ かつみ (ファイナンシャル・プランナー、生活経済ジャーナリスト)	「爆笑! 知らんとアカン! お金のコワ~い話」
7月6日(金)	東京都 渋谷区	山田 真哉 (公認会計士、税理士、作家)	「お金の壺 ~かしこい消費者の家計管理とは?~」
9月8日(土)	北海道 旭川市	山田 真哉 (公認会計士、税理士、作家)	「会計士が教える賢いお金の使い方 ~家計・貯蓄・投資のセンスアップ~」
9月8日(土)	富山県 富山市	幸田 真音 (作家)	「経済小説に経済の“いま”を読む」
9月13日(木)	青森県 青森市	洞口 勝人 (ファイナンシャル・プランナー)	「こんな見方があるんだ! 学校では教えてくれない身近な経済・お金の話」
9月15日(土)	長崎県 長崎市	井戸 美枝 (ファイナンシャル・プランナー)	「シンプルライフのすすめ あなたの家計は大丈夫?」
10月4日(木)	兵庫県 神戸市	山田 真哉 (公認会計士、税理士、作家)	「会計士が教える やさしいお金の話あれこれ」
10月5日(金)	秋田県 秋田市	ダニエル・カール (タレント、翻訳家)	「オラの日米おもしろお金講座」
10月6日(土)	北海道 帯広市	山田 真哉 (公認会計士、税理士、作家)	「お金の壺 ~家計管理のコツ~」
10月6日(土)	岡山県 岡山市	渋澤 健 (コモンズ投信株式会社 会長、公益財団法人 日本国際交流センター 理事長)	「渋澤栄一の 『論語と算盤』で日本の未来を拓く!」
10月20日(土)	沖縄県 浦添市	三瀬 顕 (弁護士)	「身近な生活笑百科」

日 時	開催地	講 師 名	テ ー マ
10月24日(水)	群馬県 前橋市	住田 裕子 (弁護士)	「広げよう！ 見守りの輪 ～高齢者を消費者トラブルから守るために～」
10月26日(金)	神奈川県 横浜市	加賀屋 克美 ((有)加賀屋感動ストアーマネジメント代表取締役)	「ディズニーランドが 教えてくれた感動のサービス」
10月27日(土)	茨城県 ひたちなか市	住田 裕子 (弁護士)	「行列のできる法律相談所から学ぶ 金融トラブル防止策」
11月 4日(日)	島根県 松江市	住田 裕子 (弁護士)	「大震災以降の私たちの生活とくらし ～いざという時のためのお金の知識～」
11月 8日(木)	千葉県 千葉市	坂東 真理子 (昭和女子大学学長)	「品格あるお金とのつきあい方」
11月10日(土)	石川県 金沢市	生島 ヒロシ (フリーアナウンサー、 ファイナンシャル・プランナー)	「いつまでも若く生きる秘訣 ～心と身体と財布の健康～」
11月10日(土)	岐阜県 大垣市	宮川 俊二 (ニュースキャスター)	「今、求められる消費者の自立」
11月11日(日)	栃木県 宇都宮市	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科 教授、総合研究開発機構<NIRA> 理事長)	「キーワードでわかる日本経済」
11月18日(日)	香川県 高松市	蟹瀬 誠一 (国際ジャーナリスト、 明治大学国際日本学部長)	「豊かな生活を実現する ワークライフバランス」
11月29日(木)	高知県 高知市	和泉 昭子 (生活経済ジャーナリスト、 ファイナンシャル・プランナー)	「賢い生活防衛術」
12月 1日(土)	鳥取県 鳥取市	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科 教授、総合研究開発機構<NIRA> 理事長)	「どうなる？ 2013年の日本経済」
12月 6日(木)	静岡県 静岡市	山田 真哉 (公認会計士、税理士、作家)	「会計士が教える 貯蓄と投資のセンスアップ」
12月 8日(土)	北海道 札幌市	宮川 俊二 (ニュースキャスター)	「今、求められる消費者の自立」
2013年 1月19日(土)	宮城県 仙台市	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科 教授、総合研究開発機構<NIRA> 理事長)	「震災後の日本経済」
1月24日(木)	愛知県 刈谷市	宮川 俊二 (ニュースキャスター)	「ニュースの目 ～今、求められる消費者の自立～」

日 時	開催地	講 師 名	テ ー マ
2月 2日(土)	福島県 福島市	和泉 昭子 (生活経済ジャーナリスト、 ファイナンシャル・プランナー)	「働き盛りのあなたへ… いま 現在こそ考えたいライフプラン ～生涯を楽しく安心して暮らすために～」
2月 3日(日)	大分県 大分市	いちのせ かつみ (ファイナンシャル・プランナー、 生活経済ジャーナリスト)	「爆笑!! おもろい人生のススメ ～笑う門にはカネ来たる？～」
2月 4日(月)	長野県 長野市	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科 教授、総合研究開発機構<NIRA> 理事長)	「これからの日本経済」
2月 6日(水)	山梨県 甲府市	蟹瀬 誠一 (国際ジャーナリスト、 明治大学国際日本学部長)	「豊かな生活を実現するために ～先行きの暮らしと経済～」
2月 17日(日)	愛媛県 松山市	宮川 俊二 (ニュースキャスター)	「地域のブランド化と情報発信」
3月 1日(金)	奈良県 奈良市	見城 美枝子 (青森大学社会学部教授、 エッセイスト)	「変わりゆく時代の暮らしと金融」
3月 17日(日)	滋賀県 大津市	山田 真哉 (公認会計士、税理士、作家)	「家計簿がつけられないワケ ～教えます！かんたん家計管理～」